

タイトル

ヨシナガヤ

タイプ 賃貸連続建

構造 在来木造

講評

木造賃貸2軒長屋のリノベーションの好例である。長屋を区切る壁に床面から小屋裏まで達する本棚を挿入することで、隣家からの音を遮断し、空間を引き締めるインテリアになっている。本棚は音の遮蔽として有効な手段である。

リフォーム・リノベーション前後の写真

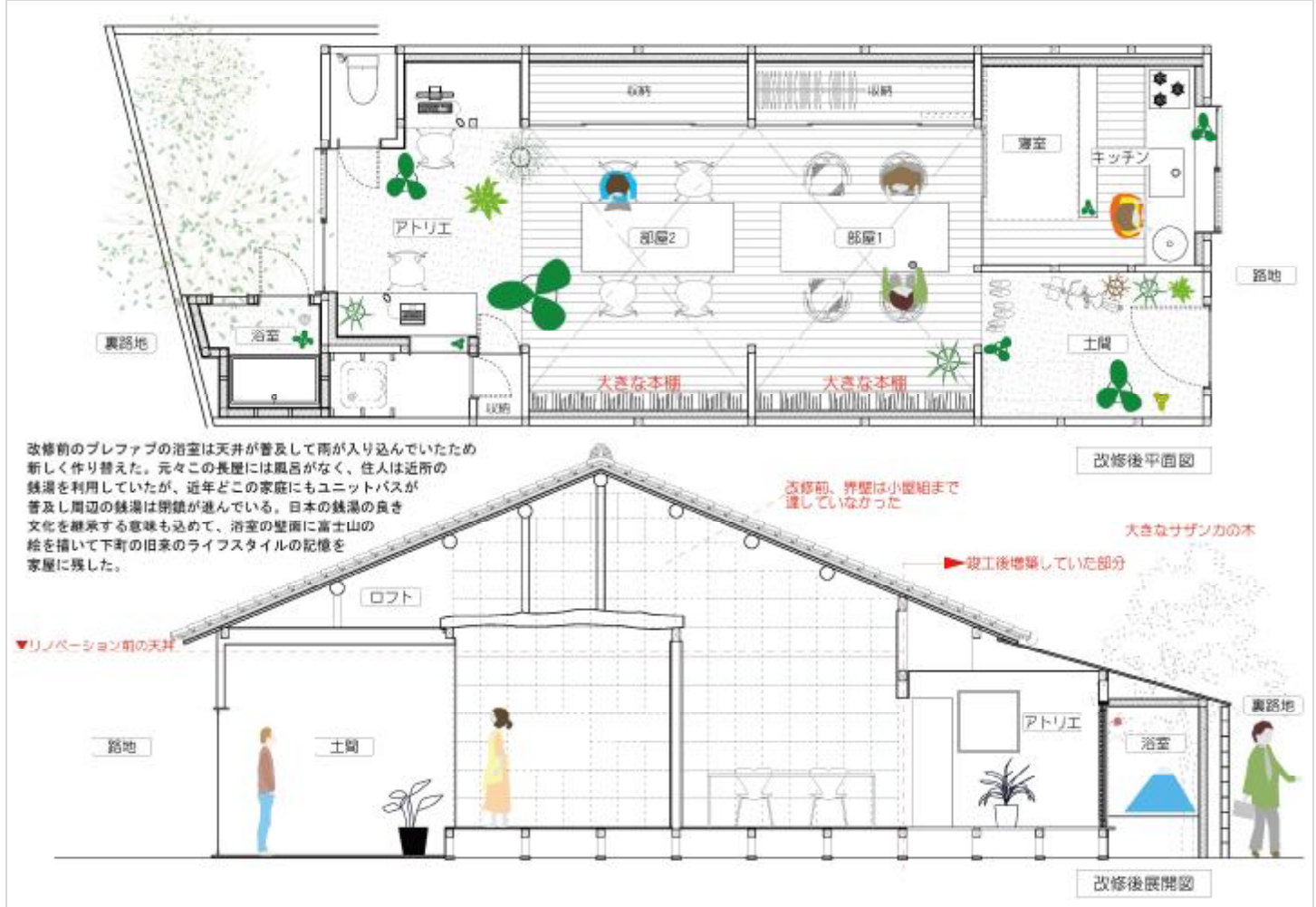


※1：中村寛史撮影、※2：辻本しんご撮影

リフォーム・リノベーション前（平面図（必須）、その他従前の特徴を表す図面等）



リフォーム・リノベーション後（平面図（必須）、展開図などデザインの特徴を表している図面等）



提案された住まい方やまちへの貢献に関するデザイン上の工夫など

大阪市内に残る2軒長屋の1軒をリノベーションした。  
隣家は80代のおばあさんが独り暮らしをされていて、8年前に「隣が空き家だと不安なので」という理由で私（ヨシナガ）は住み始めた。空き家だった長屋に住んでいることが人に少しではあるが安心を与えていると思えた一方、壁一重の関係（界壁は小屋組まで達していなかった）は設計事務所を併設していた私の住まいから音の問題で少なからず迷惑をかけることもあった。これまでの良い近隣のコミュニケーションを維持しつつ音の問題も解決できる長屋を目指した。  
街と密接に関わりをもてる地域に開かれた長屋を街に残して「<sup>よしながや</sup>良し長屋」と呼ばれるように今回のリノベーションを行った。

デザインに反映した居住者（住まい手）のニーズ

2軒長屋の場合、隣家の住人も同じ居住者であるといえる。音の問題を軽減する「大きな本棚」を挿入しおばあさんの居住環境への最大限の配慮を行った。  
古い小屋組、土壁をすべて現状のまま残した一方、下部の壁の後年の改造でクロスが張られていた壁は構造用合板で面剛性を高め耐力要素を確保した。構造用合板は白のペンキを塗りローコスト施工で現代のライフスタイルに合わせた。また断熱材も充填し熱環境への対策も行った。

居住者（住まい手）の感想

高齢化が進む街中で、若い世帯が住むことが心地よく受け入れられた。それも古いものを残した上で住んでいるからだと思う。近所の人との立ち話やお裾分けの付き合いは長屋や路地特有的な近所付き合いだと思う。地域に開かれた住環境を考える上で、古いものを活用して行くことが最適解な気がした。古くから残る長屋は街で愛されるみんなのものではないでしょうか。

データ

○所在地	大阪府大阪市平野区	○築後年数	70年	○工事費	約75(セルフビルド)万円	○工事期間	83日間	○設計会社	Office for Environment Architecture	／ 担当者	吉永規夫
○用途地域	近隣商業地域／第一種住居地域	○敷地面積	84㎡	○建築面積	56㎡	○リフォーム部分面積	56㎡	○施工会社	N.P.O (Nagaiwa-Naohiro-Norio, Profit. Organization)	／ 担当者	長岩正一+権田直博+吉永規夫
○居住者構成	総人数 2人 / うち15歳未満 0人 / うち65歳以上 0人 / ペット 0										
	<input type="checkbox"/> 単独 <input checked="" type="checkbox"/> 夫婦のみ <input type="checkbox"/> 夫婦+子 <input type="checkbox"/> 親+夫婦+子(三世代) <input type="checkbox"/> ひとり親+子										
	<input type="checkbox"/> その他の親族(親族関係者のみ) <input type="checkbox"/> 親族以外(シェア居住の場合など) <input type="checkbox"/> その他										
	<input type="checkbox"/> 性能向上の特性 <input checked="" type="checkbox"/> 耐震性能 <input type="checkbox"/> 高齢者等への配慮(バリアフリー) <input checked="" type="checkbox"/> 省エネルギー対策										
	<input type="checkbox"/> 防犯性能 <input type="checkbox"/> 維持管理対策 <input type="checkbox"/> 室内空気環境 <input type="checkbox"/> その他( )										



タイトル ヨシナガヤ

